

平成29年度 第1回教育課程編成委員会議

1. 日時

平成29年10月11日(水) 16:30~17:40

2. 場所

3階会議室

3. 出席者

教育課程編成委員会委員	関係施設	水戸井 ゆかり	第二善児園園長
	〃	村田 智子	勝山愛和香里ヶ丘幼稚園教諭
	学校長	三上 教道	
	副校長	吉本 春樹	
	教授	入江 実	
	学務次長	日村 義正	
	書記	中島 仁志	

欠席者3名(委任状受理)

4. 内容

1) 挨拶

本会議の趣旨並びに、保育者養成のために何が必要であるかについて教育保育現場の意見を拝聴し、教育課程におけるカリキュラムの展開と指導上に係る内容などの取り組みの参考としたい。

2) 教育課程について

このたび、中央教育審議会答申の「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」一学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて一(平成27年12月)において、教員養成に関する改革の具体的な方向性について提言があり、この提言から教職員免許法並びに同法施行規則が改正され、改めて教育課程に学校独自の科目設定など開設計画を検討している。

①自然体験の活動について

事例として、身近な生き物(ゴキブリ・ダンゴ虫など)を忌避する傾向にある学生が増えており、それが保育現場の子どもたちにどのような影響を与えているか。

近年の子どもたちは、昆虫を身近にしないため知らないのが実情である。従って、昆虫の生態については、発見した時の喜怒哀楽の表現へのつながりが大切と考える。

②核家族化の影響からか、家庭内で喜怒哀楽の表現方法を伝えきれていない傾向にあるのではないか。そのため、自己表現が苦手とする学生が散見される。

現場では、「どのような先生が求められているか。」例えば、音楽会や作品展などの行事でリーダーシップやセンスを持った先生がいるが、どのような体験の中で育成できるか。

リーダーシップは、リーダーの経験の有無にもよるのではなかろうか。クラブ活動経験が無い学生は、このような機会が少ない傾向にある。そのため、自己表現が発揮できないケースも考えられる。また、センスのある先生は、平素から自分のことだけではなく他者の観察をしている人や、周りの人をしっかりと見ている人などと思われる。

③実体験できる科目について

学校としては、センスを育てるために、活躍できる場を提供する必要がある。そのためには、

自然体験や社会体験・生活体験などが必要と思う。具体的に想定される体験について伺いたい。

例えば、絵本の読み聞かせでは、絵本を選択した理由が重要である。発達段階に見合う絵本の適切な選択ができるようになるために経験を積むことは大切である。

学生時代の2年間での経験は、保育現場で活用するところ、大といえる。

また特色ある科目として検討をしているが、学生の参加しやすい内容を盛り込む場合、合宿行事も一つの実体験できる場として設定が可能である。

いろいろな意見があり、次回に継続して話し合うこととした。

平成29年度 第2回教育課程編成委員会議

1. 日時

平成29年12月11日（月）16:25～17:40

2. 場所

3階会議室

3. 出席者

教育課程編成委員会委員	関係施設	竹本 榮	平野愛和学園理事長 大阪市私立保育園連盟副会長
	〃	水戸井 ゆかり	第二善児園園長
	〃	村田 智子	勝山愛和香里ヶ丘幼稚園教諭
	学校長	三上 教道	
	副校長	吉本 春樹	
	教授	入江 実	
	学務次長	日村 義正	
	書記	中島 仁志	

欠席者2名（委任状受理）

4. 内容

1) 挨拶

12月の行事の一つとして、園では餅つきがある。今までは地域の交流や協力体制があり餅つきができた。しかし近年の傾向として、地域の住民が高齢化しており、以前ほどの協力体制が難しい状況となったため、若い学生の参加が求められている。これらの行事は、伝承文化の一つであるが、継続して行事をするには色々な課題が生じている。

食中毒やアレルギー除去の問題、反面、本物の体験が地域や保護者から求められるケースもある。

2) 前回の継続審議の概要説明

今の教育課程の中で、新たな取り組みをする時間が取れるか。またゆとりのある時間が作れるかとの意見があり、自然体験や学校行事での体験の場で活用が可能。

例えば、夏の行事で夜店や宿泊保育でのインターンシップの参加など経験することができる。

最近、調理の場面での参加が、食中毒との問題で安易に調理体験ができないケースがある。餅つきにしても、食品衛生上で中止した園があると聞く。

学校では調理実習の授業がない。そのため、知識だけの内容となり、保育所の離乳食の時期や内容・味などが教科書だけでは十分でなく、体験しないとわからない要素がある。

保護者は、ネットで調べたりしているが、一人ひとり個性や発育の違いがあるため離乳食のタイミングや食事のマナーの相談、食べられない子の相談など多くの事例を知り得た先生が必要となる。

これらの家庭における基本的な生活習慣（偏食傾向の子どもなど）の指導など複雑多様な保育の相談が保育者に求められている中で、対応ができる保育者の確保と希望したいが、現実的には待機児問題で規制緩和がなされ、職員の確保が最優先となり保育者の資質の低下が指摘される。

養成校は資質の高い保育者を育成することが求められ、保育現場は保育者の確保に苦慮しているのが現実である。お互いが求める内容に温度差が生じている。

このような状況下で、厳しくも暖かい養成教育を継続していることは大切なことであるとの意見があった。

第1回・第2回の教育課程編成委員会議の意見を参考にして、次年度の教育課程に活用していきたい。